

特定本邦航空運送事業者(※)に関する航空輸送サービスに係る情報公開(平成23年1~3月)のポイント

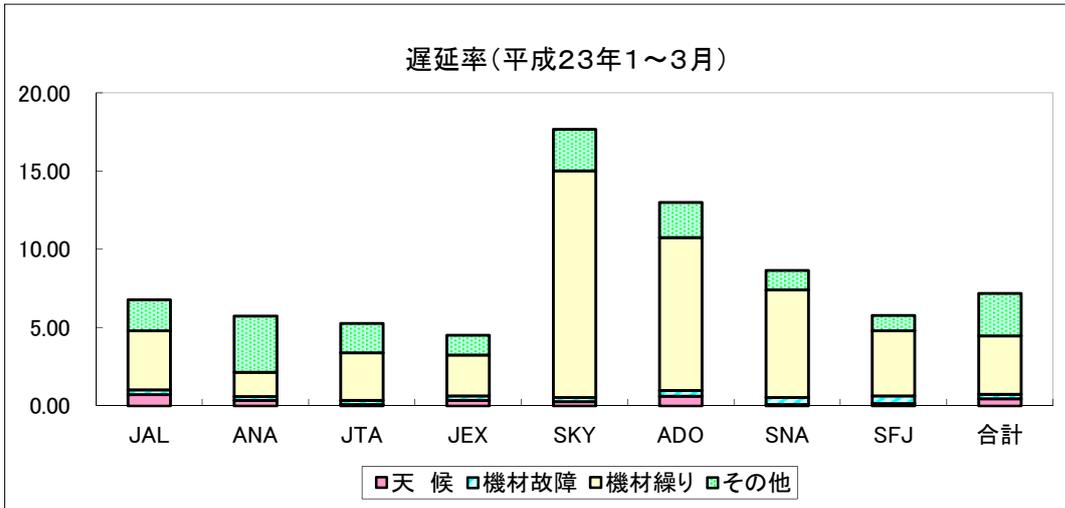
※日本航空：JAL(日本航空及びジェイエアを含む)、全日本空輸：ANA(エア・ニッポン、エア・ネクスト、エア・ニッポンネットワーク及びエア・セントラルを含む(ただし、エア・ネクスト、エア・ニッポンネットワーク及びエア・セントラルは、H22年10月1日に合併し、ANAウイングスになった為、H22年10月以降は、エア・ニッポン及びANAウイングスを含む))、日本トランスオーシャン航空：JTA、ジャルエクスプレス：JEX、スカイマーク：SKY、北海道国際航空：ADO、スカイネットアジア航空：SNA及びスターフライヤー：SFJ

1. 輸送サービスの比較等に関する情報

(1) 遅延率(平成23年1~3月)

当期実績	前年同期実績	前年同期との比較
7.19%	7.19%	増減無し

備考)「遅延便」とは、出発予定時刻より15分を超えて出発した便をいう。

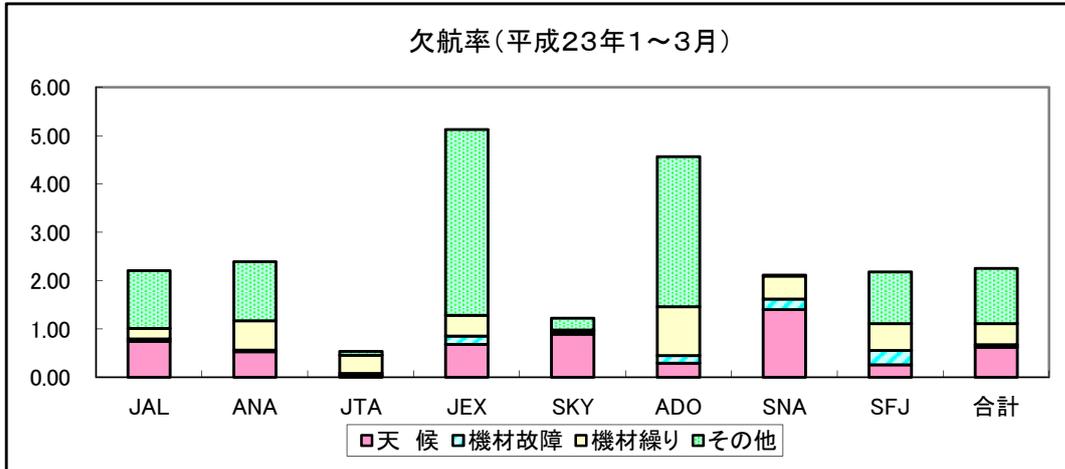


※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。)

(2) 欠航率(平成23年1~3月)

当期実績	前年同期実績	前年同期との比較
2.26%	1.18%	1.08ポイント悪化

※欠航率が前年同期より悪化している理由は、東北地方太平洋沖地震に伴い仙台便が大量に欠航したためである。



※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。)

2. 運賃関連情報

(1) 輸送実績(平成23年1月～3月)

項目	当期実績	前年同期実績	前年同期との比較
平均搭乗区間距離	918km	917km	0.1%増
輸送人員	1744万7465人	1969万9196人	11.4%減
輸送人キロ	160億1433万人キロ	180億6493万人キロ	11.4%減
旅客収入	2804億43百万円	2960億83百万円	5.2%減
輸送人員あたり 旅客収入	16.1千円	15.0千円	7.3%増
輸送人キロあたり 旅客収入	17.5円	16.4円	6.7%増

(2) 路線別データ(平成23年1月～3月)

① 旅客数

上位5路線は次のとおり。

1位 東京＝札幌	199万2910人
2位 東京＝福岡	172万3031人
3位 東京＝那覇	115万7065人
4位 東京＝大阪	114万2985人
5位 東京＝鹿児島	48万8535人
全路線	1732万5513人

② 利用率

上位5路線は次のとおり。

1位 札幌＝茨城	78.6%
2位 那覇＝静岡	78.2%
3位 中部＝石垣	76.8%
4位 大阪＝那覇	76.7%
5位 東京＝山形	74.3%
全路線	58.3%

下位5路線は次のとおり。

1位 東京＝中部	6.6%
2位 札幌＝旭川	20.3%
3位 東京＝大島	21.8%
4位 札幌＝利尻	22.1%
5位 名古屋＝新潟	23.3%
全路線	58.3%

3. フレックストラベラー制度(※)に関する情報

平成23年1～3月フレックストラベラー制度を有する航空会社又はグループの全輸送人員に対する不足座席数の割合(1万人あたり)が高かった上位3社は次のとおり。

(※)オーバーセールズ(搭乗手続きにきた予約客の数が提供座席数を上回る結果、座席を提供できない予約客が発生すること)の発生が判明した時点で、自主的に搭乗を取りやめる旅客を航空会社が幅広く募集する。

		全輸送人員に対する不足座席数の割合 (1万人あたり)	
		当期実績	前期実績
①	全日本空輸	1.25人	1.66人
②	北海道国際航空	1.00人	3.48人
③	スターフライヤー	0.87人	0.6人
	全社平均	0.94人	1.22人